

神戸大学大学院医学研究科 内科系講座小児科学分野
こども急性疾患学部門

令和5年度

年報

No.15

ANNUAL REPORT 2023

Division of General Pediatrics,
Department of Pediatrics
Kobe University Graduate School of Medicine



目 次

1. 年報の発行にあたって	2
2. 教員	6
3. 診療	9
4. 研究成果の市民還元	15
5. 教員の活動	28
6. 研究	39
7. 神戸こどもの発達支援研修会	52
8. 編集後記	58

1. 年報（令和5年度）の発刊にあたって

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門

特命教授 藤岡 一路

こども急性疾患学部門は、神戸市・神戸市医師会・神戸大学の三者の間で調印された「神戸市のこどもの生命と健康を守る協同事業推進に係る基本合意」の一環として、平成21年10月に設置された神戸市による寄附講座です。開講後15年目を迎えました。

平成31年4月より小児急性疾患学領域および小児統合健康学領域の2領域に分割され、後者の特命教授として永瀬裕朗先生が令和元年7月に特命教授に就任されました。小児急性疾患学領域におきましては、小児急性疾患に関する研究拠点を設置し、小児急性疾患と小児救急医学に関する研究およびその研究成果の普及を行います。そして、小児救急医療の向上を目指し、こどもたちの生命と健康を守ることに寄与することを目的としております。また、小児統合健康学領域におきましては、小児の発達障がい、児童虐待を含む外傷に関する研究拠点を設置し、これらの分野における調査研究を行うとともに、その研究成果の普及を行うとともに、小児科医が関与すべき役割を明らかにし、こどもの健康福祉の増進に寄与することを目的としています。この度、令和5年度の事業や成果をまとめ、年報「No.15」を発刊いたしました。

本講座は竹島泰弘先生、森岡一朗先生、野津寛大先生の後を引き継ぎ令和3年12月に栗野宏之先生が特命教授に就任しました。栗野先生は令和4年11月30日をもって退任し、鳥取大学研究推進機構研究基盤センター教授として異動されました。令和5年5月より、藤岡一路が特命教授を務めさせていただいております。令和6年4月から、神戸市健康局と神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野は、寄附講座の設置に関する新たな協定を締結し、本部門の今後4年間（令和9年まで）の継続が決定いたしました。新協定の締結により、小児統合健康学領域は同じく神戸市の寄附講座である小児神経学・発達行動小児科学部門に統合され、小児急性疾患学領域は本部門に引き継がれております。

令和6年4月時点で小児急性疾患学部門は私の他に、田村彰広、石森真吾、北角英晶が在籍しています。皆で神戸市のよりよい小児医療体制を目指し、課題に取り組んでおります。

年間事業のご報告をさせていただきます。

【神戸市の小児救急診療支援】

神戸こども初期急病センターの診療支援を行いました。神戸大学小児科と協力し、センター稼働日の365日のうち54%にあたる197日をこども急性疾患学部門または神戸大学小児科の医師

が出務してきました。また、それ以外に神戸こども初期急病センター常勤職員として3名の大学院生が勤務しています。

また令和元年10月より、療育手帳判定業務に係る医療診断業務、職員研修に出務しています。神戸市こども家庭センター内一時保護所の週1回の健診業務の支援も行っています。

【神戸市民への啓発活動】

以前より行っておりました当部門主催の市民公開講座に関しては、神戸市との新たな寄附講座覚書に則り、より多数の参加者が見込める市民参加型イベントへの出展や、ラジオ、インターネット掲載への協力という形に変更になりました。引き続き、神戸市の事業に積極的に協力し、より多くの市民に本部門ならびに神戸こども初期急病センターの宣伝・啓発を行っていかうと考えております。

【こども家庭局との連携】

小児急性疾患の研究・診療の成果を社会へ発信し、急性疾患の予防や安心できる子育てを支援する活動の一環として、令和5年度はこども家庭局との連携のもと、神戸市の子育て応援サイト「こどもっとKOBE」のこどもの急病時の対処法に関するインタビューを掲載いただきました。今後も、小児医療の専門家として、神戸市こども家庭局に積極的に貢献していく所存です。

【市が実施する市民向けの広報等への協力】

研究成果の市民還元および、神戸こども初期急病センターの運営広報の目的で、藤岡がラジオ関西と神戸大学が共同で運用している「神戸大学☆夢ラボ」に出演し、寄附講座の研究内容や神戸こども初期急病センターの診療支援、神戸市子育て事業への協力に関してPRを行いました。今後も、市民向けの広報活動に積極的に貢献していきます。

【HAT神戸連携防災イベント「イザ！美かえる大キャラバン！2024」参加】

上記同様に、神戸こども初期急病センターの広報活動の一環として、2024年1月28日にJICA関西/人と防災未来センターで開催されたHAT神戸連携防災イベント「イザ！美かえる大キャラバン！2024」に「いざ！お医者さんの仕事を知ろう！」という企画に、藤岡と北角が参加しました。「救急に関するクイズに参加してもらい一緒に楽しく学べる内容を目指し、200名以上の参加者にブースに来場いただきました。

【学ぼうさい2024 in umie参加】

同じく、2024年2月24日に神戸市消防局が中心となって開催している「学ぼうさい2024」に藤岡と北角が参加しました。前述のイベントよりは、より小さなお子様（未就学児）を中心とする参加者を対象にクイズとスタンプラリーにより、小児救急医療体制ならびに神戸こども初期急病センターの広報を行いました。

【こどもの発達支援に関わる専門職を対象とした研修会】

市内の障がいのあるこどもとその家族の支援に関わる専門職を対象とした研修会「神戸こどもの発達支援研修会」をハイブリッド形式で、2回開催しました。これはこども総合療育学との共催です。

第6回神戸こどもの発達支援研修会

主催：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども総合療育学・こども急性疾患学部門小児統合健康学領域

日時：2023年6月24日（土） 15：00～17：00

場所：神戸大学医学部大講義室、zoom配信（ハイブリッド開催）

内容：

1) 療育に活かす遺伝診療

講師：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども総合療育学 特命助教
花房宏昭

2) 乳幼児健診のデータを活用し、こどもの発達を考える

講師：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門小児統合健康学領域 特命助教 京野由紀

第7回神戸こどもの発達支援研修会

主催：神戸大学大学院医学研究科小児科学分野こども総合療育学・こども急性疾患学部門小児統合健康学領域（神戸市寄附講座）、神戸大学大学院人間発達環境学研究科乳幼児教育学研究室・教育連携推進室、神戸市こども家庭局 共催

日時：2023年12月16日（土） 14：00～17：00

場所：神戸大学医学部A講義室、zoom配信（ハイブリッド開催）

内容：ひとりひとりの発達を踏まえた乳幼児の支援

保育学・乳幼児教育学と医学の専門職連携のあり方を探る

第一部 ハイブリッドセミナー 14：00～15：45

講演1 発達の問題に対する医学からのアプローチ

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門小児統合健康学領域 特命教授 永瀬裕朗

講演2 保育学・乳幼児教育学が目指す子どもの育ちと学びの支援

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授 北野幸子

質疑応答

指定発言者 神戸市総合療育センター診療所 所長 高田 哲

第二部 ワークショップ 16：00-17：00（現地参加者のみ）

保育学・乳幼児教育学と医学の専門職連携にむけた対話型グループワーク

【小児急性疾患の解析に関する研究】

研究面におきましては、本部門では、神戸こども初期急病センターの診療支援を行う以外に、センターの受診者データを用いて小児急性疾患の解析を行い、その結果を市民に還元するとともに、医療の現場および全国に発信することにより、小児急性疾患学の向上に努めています。

最近の研究成果、現在進行中の研究として、

1. 小児におけるCOVID-19の臨床的特徴に関する研究（調査中）
2. 小児初期急病センター受診患者の特徴と疾患割合の調査（調査中）
3. 神戸こども初期急病センターにおけるトリアージの有用性（調査中）

の3つの研究テーマを実施しています。これらにより、神戸市から小児急性疾患の疫学データ、エビデンスの発出を行っていく所存です。さらにデータを集積し、解析を行い、結果を医学・社会に還元することで、よりよい救急医療体制の確立を目指しています。

新型コロナウイルスの感染対策が緩和され、小児の急性疾患が再び増え、救急患者数がコロナ禍以前に戻ってきました。このような変化に対応し、本年も神戸市の小児救急体制の改善に向けた更なる取組を行って参ります。引き続きご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年9月吉日

2. 教員（令和5年度）

小児急性疾患学領域

藤岡 一路 特命教授

任期：令和5年3月～現職

日本小児科学会認定専門医・指導医

日本周産期・新生児医学会（新生児）専門医・指導医

日本周産期・新生児医学会 新生児蘇生法専門コースインストラクター

厚生労働省 災害時小児・周産期リエゾン



田村 彰広 特命講師

任期：令和3年4月～現職

日本小児科学会専門医・指導医

日本血液学会専門医・指導医

日本小児血液・がん学会専門医

日本造血・免疫細胞療法学会認定医



南部 静紀 特命助教

任期：令和5年4月～令和6年3月

日本小児科学会専門医



北角 英晶 特命助教

任期：令和4年4月～現職

日本小児科学会専門医

日本腎臓学会腎臓専門医

厚生労働省 臨床研修指導医



小児統合健康学領域

永瀬 裕朗 特命教授

任期：令和元年7月～令和6年3月

日本小児科学会専門医・指導医

日本小児神経学会専門医

日本小児精神神経学会認定医

てんかん専門医

子どものこころ専門医

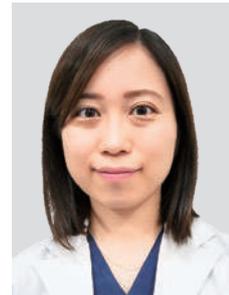
厚生労働省 臨床研修指導医



京野 由紀 特命助教

任期：令和4年4月～令和6年3月

日本小児科学会専門医



過去の在籍教員

	在籍期間	現 職
松尾 雅文	平成21年11月 ～ 平成22年3月	神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 客員教授 神戸常盤大学 保健科学部 特命教授
竹島 泰弘	平成21年11月 ～ 平成26年3月	兵庫医科大学小児科学 主任教授
矢内 友子	平成22年4月 ～ 平成23年2月	武田薬品工業株式会社
八木麻理子	平成22年2月 ～ 平成22年4月	甲南女子大学人間科学部総合子ども学科 教授
森貞 直哉	平成22年9月 ～ 平成27年9月	兵庫県立こども病院臨床遺伝科 科長
藤林 洋美	平成21年11月 ～ 平成22年3月	公立豊岡病院小児科 部長
中川 卓	平成24年4月 ～ 平成26年4月	姫路赤十字病院小児神経科 部長
栗野 宏之	平成22年4月 ～ 平成24年10月	鳥取大学研究推進機構研究基盤センター遺伝子管理部門 教授
橋村 裕也	平成22年10月 ～ 平成24年3月	はしむら小児科 院長
久保川育子	平成22年10月 ～ 平成26年6月	くぼかわ医院
忍頂寺毅史	平成25年4月 ～ 平成27年3月	兵庫県立はりま姫路総合医療センター小児科 科長
石森 真吾	平成24年11月 ～ 平成25年3月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 こども急性疾患学部門 特命講師
山本 暢之	平成26年5月 ～ 平成27年3月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 准教授
松野下夏樹	平成26年7月 ～ 平成27年3月	北播磨総合医療センター小児科 主任医長
神吉 直宙	平成27年4月 ～ 平成28年3月	姫路赤十字病院小児科 第二小児科副部長 (兼) 小児センター長
岩谷 壮太	平成27年4月 ～ 平成28年3月	兵庫県立こども病院周産期医療センター 新生児内科 部長
西山 将広	平成27年4月 ～ 平成29年3月	兵庫県立こども病院神経内科 医長
森岡 一朗	平成26年4月 ～ 平成30年3月	日本大学医学部小児科学系小児科学分野 主任教授
池田真理子	平成23年3月 ～ 平成30年3月	藤田医科大学病院臨床遺伝科 病院准教授
中西 啓太	平成29年4月 ～ 平成30年3月	明石医療センター小児科 医長
藤村 順也	平成29年4月 ～ 平成30年6月	加古川中央市民病院小児科 医長
森 健	平成29年4月 ～ 平成31年3月	兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科 部長
田中 司	平成30年4月 ～ 平成31年3月	兵庫県立はりま姫路総合医療センター小児科 医長
富岡 和美	平成29年4月 ～ 平成30年12月	兵庫県こども病院総合診療科 医長
高藤 哲	平成30年4月 ～ 令和2年3月	国領こどもクリニック 院長
石田 悠介	平成31年1月 ～ 令和2年3月	兵庫県立こども病院神経内科 医長
竹田 洋樹	平成31年4月 ～ 令和3年2月	甲南医療センター救急科 集中治療部 部長
忍頂寺毅史	令和2年4月 ～ 令和3年3月	兵庫県立はりま姫路総合医療センター小児科 科長
野津 寛大	平成30年8月 ～ 令和3年5月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 教授
山本 暢之	令和3年4月 ～ 令和4年3月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 准教授
青砥 悠哉	令和3年6月 ～ 令和4年3月	兵庫県立はりま姫路総合医療センター小児科 医長
山口 宏	令和2年4月 ～ 令和4年3月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 小児神経学・ 発達行動小児科学部門 特命講師
栗野 宏之	令和3年12月 ～ 令和4年11月	鳥取大学研究推進機構研究基盤センター遺伝子管理部門 教授
近藤 淳	令和4年5月 ～ 令和5年3月	加古川中央市民病院小児科 医長
城戸 拓海	令和4年4月 ～ 令和5年3月	神戸大学医学部附属病院 助教
永瀬 裕朗	令和元年7月 ～ 令和6年3月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 小児神経学・ 発達行動小児科学部門 特命教授
京野 由紀	令和4年4月 ～ 令和6年3月	明石市こども局明石こどもセンターこども支援課
南部 静紀	令和5年4月 ～ 令和6年3月	神戸大学大学院医学研究科小児科学分野 小児神経学・ 発達行動小児科学部門 特命助教

3. 診療

出務表

R5年4月

					4/1(土)	4/2(日)
					神戸大	急性疾患学
						医師会枠(神戸大)
4/3(月)	4/4(火)	4/5(水)	4/6(木)	4/7(金)	4/8(土)	4/9(日)
急性疾患学		神戸大		神戸大	神戸大	急性疾患学
						急性疾患学
4/10(月)	4/11(火)	4/12(水)	4/13(木)	4/14(金)	4/15(土)	4/16(日)
		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	
4/17(月)	4/18(火)	4/19(水)	4/20(木)	4/21(金)	4/22(土)	4/23(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大			神戸大
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
4/24(月)	4/25(火)	4/26(水)	4/27(木)	4/28(金)	4/29(土)	4/30(日)
		神戸大			医師会枠(神戸大)	医師会枠(神戸大)
					医師会枠(神戸大)	

R5年5月

5/1(月)	5/2(火)	5/3(水)	5/4(木)	5/5(金)	5/6(土)	5/7(日)
急性疾患学		神戸大	医師会枠(神戸大)	神戸大	神戸大	急性疾患学
		医師会枠(神戸大)		医師会枠(神戸大)		医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
5/8(月)	5/9(火)	5/10(水)	5/11(木)	5/12(金)	5/13(土)	5/14(日)
		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
5/15(月)	5/16(火)	5/17(水)	5/18(木)	5/19(金)	5/20(土)	5/21(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大		神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	
5/22(月)	5/23(火)	5/24(水)	5/25(木)	5/26(金)	5/27(土)	5/28(日)
		神戸大				神戸大
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
5/29(月)	5/30(火)	5/31(水)				

R5年6月

			6/1(木)	6/2(金)	6/3(土)	6/4(日)
				神戸大	神戸大	急性疾患学
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
6/5(月)	6/6(火)	6/7(水)	6/8(木)	6/9(金)	6/10(土)	6/11(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
6/12(月)	6/13(火)	6/14(水)	6/15(木)	6/16(金)	6/17(土)	6/18(日)
		神戸大	神戸大		神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	
6/19(月)	6/20(火)	6/21(水)	6/22(木)	6/23(金)	6/24(土)	6/25(日)
急性疾患学		神戸大				神戸大
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
6/26(月)	6/27(火)	6/28(水)	6/29(木)	6/30(金)		
		神戸大				

R5年7月

					7/1(土)	7/2(日)
					神戸大	医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
7/3(月)	7/4(火)	7/5(水)	7/6(木)	7/7(金)	7/8(土)	7/9(日)
急性疾患学		神戸大		神戸大	神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
7/10(月)	7/11(火)	7/12(水)	7/13(木)	7/14(金)	7/15(土)	7/16(日)
		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
7/17(月)	7/18(火)	7/19(水)	7/20(木)	7/21(金)	7/22(土)	7/23(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大			神戸大
						急性疾患学
7/24(月)	7/25(火)	7/26(水)	7/27(木)	7/28(金)	7/29(土)	7/30(日)
		神戸大				医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
7/31(月)						

R5年8月

	8/1(火)	8/2(水)	8/3(木)	8/4(金)	8/5(土)	8/6(日)
		神戸大		神戸大	神戸大	医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
8/7(月)	8/8(火)	8/9(水)	8/10(木)	8/11(金)	8/12(土)	8/13(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
8/14(月)	8/15(火)	8/16(水)	8/17(木)	8/18(金)	8/19(土)	8/20(日)
		神戸大	神戸大		神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	
8/21(月)	8/22(火)	8/23(水)	8/24(木)	8/25(金)	8/26(土)	8/27(日)
急性疾患学		神戸大				神戸大
						急性疾患学
8/28(月)	8/29(火)	8/30(水)	8/31(木)			

R5年9月

				9/1(金)	9/2(土)	9/3(日)
				神戸大	神戸大	医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
9/4(月)	9/5(火)	9/6(水)	9/7(木)	9/8(金)	9/9(土)	9/10(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
9/11(月)	9/12(火)	9/13(水)	9/14(木)	9/15(金)	9/16(土)	9/17(日)
		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	医師会枠(神戸大)
9/18(月)	9/19(火)	9/20(水)	9/21(木)	9/22(金)	9/23(土)	9/24(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大			神戸大
						急性疾患学
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
9/25(月)	9/26(火)	9/27(水)	9/28(木)	9/29(金)	9/30(土)	
		神戸大			医師会枠(神戸大)	

R5年10月

						10/1(日)
						急性疾患学
10/2(月)	10/3(火)	10/4(水)	10/5(木)	10/6(金)	10/7(土)	10/8(日)
急性疾患学		神戸大		神戸大	神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
10/9(月)	10/10(火)	10/11(水)	10/12(木)	10/13(金)	10/14(土)	10/15(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大			神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)						医師会枠(神戸大)
10/16(月)	10/17(火)	10/18(水)	10/19(木)	10/20(金)	10/21(土)	10/22(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大		神戸大	神戸大
						急性疾患学
10/23(月)	10/24(火)	10/25(水)	10/26(木)	10/27(金)	10/28(土)	10/29(日)
		神戸大			医師会枠(神戸大)	
10/30(月)	10/31(火)					

R5年11月

		11/1(水)	11/2(木)	11/3(金)	11/4(土)	11/5(日)
		神戸大		神戸大	神戸大	急性疾患学
				医師会枠(神戸大)		医師会枠(神戸大)
				医師会枠(神戸大)		医師会枠(神戸大)
11/6(月)	11/7(火)	11/8(水)	11/9(木)	11/10(金)	11/11(土)	11/12(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
						急性疾患学
11/13(月)	11/14(火)	11/15(水)	11/16(木)	11/17(金)	11/18(土)	11/19(日)
		神戸大	神戸大		神戸大	急性疾患学
						医師会枠(神戸大)
11/20(月)	11/21(火)	11/22(水)	11/23(木)	11/24(金)	11/25(土)	11/26(日)
急性疾患学		神戸大			医師会枠(神戸大)	神戸大
						急性疾患学
11/27(月)	11/28(火)	11/29(水)	11/30(木)			

R5年12月

				12/1(金)	12/2(土)	12/3(日)
				神戸大	医師会枠(神戸大)	急性疾患学
					神戸大	
12/4(月)	12/5(火)	12/6(水)	12/7(木)	12/8(金)	12/9(土)	12/10(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
12/11(月)	12/12(火)	12/13(水)	12/14(木)	12/15(金)	12/16(土)	12/17(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大			神戸大	急性疾患学
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
12/18(月)	12/19(火)	12/20(水)	12/21(木)	12/22(金)	12/23(土)	12/24(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大			神戸大
						急性疾患学
12/25(月)	12/26(火)	12/27(水)	12/28(木)	12/29(金)	12/30(土)	12/31(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大				医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)

R6年1月

1/1(月)	1/2(火)	1/3(水)	1/4(木)	1/5(金)	1/6(土)	1/7(日)
急性疾患学		神戸大		神戸大	神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	
1/8(月)	1/9(火)	1/10(水)	1/11(木)	1/12(金)	1/13(土)	1/14(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大			神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
1/15(月)	1/16(火)	1/17(水)	1/18(木)	1/19(金)	1/20(土)	1/21(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大		神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
1/22(月)	1/23(火)	1/24(水)	1/25(木)	1/26(金)	1/27(土)	1/28(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大				神戸大
						急性疾患学
1/29(月)	1/30(火)	1/31(水)				
医師会枠(神戸大)						

R6年2月

			2/1(木)	2/2(金)	2/3(土)	2/4(日)
				神戸大	神戸大	急性疾患学
2/5(月)	2/6(火)	2/7(水)	2/8(木)	2/9(金)	2/10(土)	2/11(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
2/12(月)	2/13(火)	2/14(水)	2/15(木)	2/16(金)	2/17(土)	2/18(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大	神戸大		神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)						
2/19(月)	2/20(火)	2/21(水)	2/22(木)	2/23(金)	2/24(土)	2/25(日)
急性疾患学		神戸大				神戸大
						医師会枠(神戸大)
						医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
2/26(月)	2/27(火)	2/28(水)	2/29(木)			
医師会枠(神戸大)		神戸大				

R6年3月

				3/1(金)	3/2(土)	3/3(日)
				神戸大	神戸大	急性疾患学
3/4(月)	3/5(火)	3/6(水)	3/7(木)	3/8(金)	3/9(土)	3/10(日)
急性疾患学		神戸大			神戸大	急性疾患学
医師会枠(神戸大)					医師会枠(神戸大)	急性疾患学
3/11(月)	3/12(火)	3/13(水)	3/14(木)	3/15(金)	3/16(土)	3/17(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大			神戸大	急性疾患学
					医師会枠(神戸大)	
3/18(月)	3/19(火)	3/20(水)	3/21(木)	3/22(金)	3/23(土)	3/24(日)
急性疾患学		神戸大	神戸大			神戸大
医師会枠(神戸大)		医師会枠(神戸大)				医師会枠(神戸大)
		医師会枠(神戸大)				医師会枠(神戸大)
						急性疾患学
3/25(月)	3/26(火)	3/27(水)	3/28(木)	3/29(金)	3/30(土)	3/31(日)
医師会枠(神戸大)		神戸大			医師会枠(神戸大)	
					医師会枠(神戸大)	

4. 研究成果の市民還元

1. 研究テーマには、市内小児科医の知識向上及び市民啓発に直接繋がるものを含むものとし、講演会等においてそれらの研究成果を小児科医または市民に対して還元すること
2. 研究成果を市民に対して還元するため、市と連携を密にし、市が実施する市民向けの広報等に年間を通じて協力すること。併せて神戸こども初期急病センターの運営広報を実施すること

を念頭に、以下の取組を行いました。

1. 神戸市の子育て応援サイト【こどもっとKOBE】への協力

【こども家庭局との連携】



■寄附講座特命教授がこどもの急病時の対処法を記事掲載

- ・インタビュー内でHATへの診療支援についてもPR
- ・HAT看護師による電話相談事業の紹介と共に掲載



その他年間通じてこども家庭局からの広報協力オーダーに対応

2. 神戸大学☆夢ラボ@ラジオ関西への出演

神戸大学☆夢ラボ@ラジオ関西への出演



- 放送日時：毎週日曜 午前8時45分～9時（令和5年4月放送開始）
- パーソナリティ：天宮遥（神戸大学出身のピアニスト・ラジオパーソナリティ）
- 出演者：藤岡 一路
神戸大学医学部附属病院 小児科 特命教授（こども急性疾患学部門）
- 放送時期：令和6年1～3月の放送回にて2回放送予定（時期未確定）
- 内容：寄附講座研究内容やHATの診療支援
神戸市子育て事業への協力についてPR

【番組説明】

- ・神戸大学の研究者が1人あたり2回に渡って出演し、日夜研究している専門分野について、研究のきっかけや研究成果の社会への影響などをリレー形式で伝える番組
- ・神戸大学とラジオ関西が令和5年3月に包括連携を締結したことを契機に番組開始

The image shows a YouTube player interface for a podcast episode. The video title is '神戸大学☆夢ラボ 大石哲教授 都市安全研究セン...' and the duration is 00:00:00. Below the video player, there is a 'SHARE SUBSCRIBE DESCRIPTION' bar. Underneath, the 'IN THIS PLAYLIST' section shows 30 of 76 episodes. The first four episodes listed are:

Episode	Duration
大川剛直 システム情報学研究科長(2) 【2024年3月10日放送分】	13 min
大川剛直 システム情報学研究科長(1) 【2024年3月3日放送分】	13 min
藤岡一路 神戸大学附属病院小児科特命教授(2) 【2024年2月25日放送分】	13 min
藤岡一路 神戸大学附属病院小児科特命教授(1) 【2024年2月18日放送分】	13 min

3. HAT神戸連携防災イベント【イザ！ 美かえる大キャラバン！ 2024】への参加

イベント概要

1.開催概要

- 開催日時 2024年1月28日（日）13：00～16：00
- 会場 JICA関西／人と防災未来センター
- 入場料 無料
- 共催 JICA関西/国際防災研修センター、
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、
兵庫県立美術館、公益財団法人兵庫県国際交流協会
- 企画・運営協力 NPO法人プラス・アーツ

2.会場案内

- 施設名称 JICA関西
人と防災未来センター
- 所在地 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
- アクセス 阪神「岩屋」駅から徒歩約10分
阪神「春日野」駅から徒歩約12分
JR「灘」駅から徒歩約12分





4. 神戸市消防局主催 学ぼうさい2024 ハーバーランドumie





4.1 コドモっとHPから転載

子どもの急病どうしたらいい？〈その1〉医師が解説！知っておきたい対処法と病院のかかり方。

子どもがケガをしたり、急に具合が悪くなると心配ですよね。何が起こるかは予測不可能ですが、代表的な病気の対処法などはあらかじめ知っておくと、いざというとき慌てずにすむことがあります。子どもの急病はどんなことに気をつければよいのか、どう対処すればよいのか、小児科の医師に話をうかがいました。



〈お話をうかがった方〉

神戸大学医学部附属病院 小児科（こども急性疾患学部門）特命教授 藤岡一路医師

子どもの急な体調不良で多いのはどういうものですか？

一番は発熱。その他には腹痛、おう吐などが、比較的多く見られる症状です。

発熱したら、すぐに病院へ行ったほうがよいのでしょうか？

生後3ヵ月未満の赤ちゃんで、38度以上発熱しているときは、必ず病院を受診しましょう。この時期の赤ちゃんは、基本的に母体から移行した免疫で守られています。にもかかわらず発熱するというのは、一般的なカゼとは考えにくく、重い感染症の可能性があるので。

生後3ヵ月以降なら、急いで病院へ行かなくても大丈夫ですか？

生後3ヵ月を過ぎると、いわゆるカゼによる発熱が増えてきます。熱があっても、普段どおり哺乳・飲食ができていて、よく眠れているようであれば、基本的には慌てて病院へ行かなくてもよいと考えます。まずは家でゆっくり寝かせてあげて、様子を見てください。

気をつけてあげてほしいのは、発熱以外にも、呼吸が苦しそう、哺乳・飲食ができない、しんどくて眠れないなど、他の症状も伴っている場合です。つらい症状があると、それによってさらに体調が悪化することがあるので、一度病院で診てもらおうことをおすすめします。

他に、発熱で気をつけることはありますか？

熱が5日以上続く場合は、細菌感染症や川崎病などの病気が隠れている可能性もあるので、必ず病院で診てもらいましょう。

なお、予防接種を受けた翌日は熱が出ることがあります。その際は、活気があり発熱以外の症状がなければ様子見て大丈夫です。

腹痛の原因は、どんなことが考えられますか？

私が診療していて体感的にもっとも多いのは、便秘です。子どもは大人と比べて腸のはたらきが未熟なため、便が硬くなって出にくくなりやすいのです。

また、感染性の胃腸炎でも腹痛を起こすことがあります。その場合は、下痢やおう吐を伴うことが多いです。

便秘や胃腸炎による腹痛の対処法は？

便秘による腹痛は排便すれば軽快することが多いですし、胃腸炎もおなかの状態がよくなれば自然に回復します。

とはいえ、頑固な便秘の場合は浣腸してもらったほうがいい場合もありますし、胃腸炎で水分もとれない状態だと点滴が必要になることもあります。判断に迷ったり、心配なときは病院を受診してください。

なかなか痛みがおさまらない場合は、他の病気の可能性を疑わなくてはなりません。

腹痛を起こす他の病気とは、どういうものですか？

特に見逃してはならないのが、腸重積（ちょうじゅうせき）と虫垂炎（ちゅうすいえん）です。

腸重積は、腸の一部が重なり合って血流が悪くなる病気です。2歳くらいまでの乳児に発症しやすく、悪化すると腸管が壊死して命にかかります。

腹痛におう吐や血便（便に血が混じること）を伴うような場合、不機嫌が持続する場合は、必ず病院を受診してください。

虫垂炎は、いわゆる盲腸です。子どもに限らず幅広い年齢層に起こりうる病気で、これも放っておくと腸が破れて命にかかわることがあります。

一般には右の下腹部が痛くなるといわれていますが、子どもは正確に表現することができないため、腹痛が長く続くようなら、やはり病院を受診すべきです。

食べたものを吐いてしまうときは、どうしたらいいですか？

おう吐は、先ほども述べたように感染性の胃腸炎が考えられます。お子さんで多いのは、下痢とセットで起こる夏カゼです。

胃腸炎によるおう吐の基本的な対処法は、飲食を避けることです。吐くときは無理に食べさせず、少量の水分だけをとらせて、まずはおなかの状態がよくなるのを待ちましょう。

おう吐で病院へ行かなければならないのは、どんなときですか？

病院を受診するかどうかは、水分がとれるかどうかが目安になります。
一定期間の絶食の後もお少量の水分さえ受け付けられないなら、脱水状態になってしまう可能性があるため、病院へ行くべきです。
水分はとれているけど絶食しても回復せず、固形物がとれない状態が数日続く場合も、受診をおすすめします。

子どもの急病で病院へ行く場合は、どこへ行ったらいいですか？

平日であれば、まずはかかりつけの病院へ行ってください。
「基本的には様子見て大丈夫でしょう」と述べた症状でも、病院へ行ってはいけないということではありません。心配なら、日中の病院があいている時間に受診しましょう。
先に説明したような、受診したほうがよいと思われる症状で、夜間や休日など一般の病院があいていない時間帯は、神戸市では「[神戸子ども初期急病センター\(外部リンク\)](#)」で診療が受けられます（小児内科のみ）。



子どもがケガをしたときの対処法も教えてください。

一部の小児救急医を除いて、小児科医はケガの対処の専門家ではありません。ですので、一般にケガは小児科ではなく、大人と同じ外科の対応になることが多いです。
たとえば頭を打ったりしたときは外からは見えない障害が起きている可能性もあるなど、ケガに関しては軽症か重症かの判断基準を一概に示すことはできません。子どもがケガをして判断に迷うときは、神戸市の救急相談ダイヤル「#7119」に相談してください。

最後に、子どもの健康を見守る親御さんへのメッセージをお願いします。

お子さんの体調を見極める際、もっとも大切なポイントは「元気かどうか」です。特に生後半年以内の小さい子どもであれば、たとえばいつもと泣き声が違う、昨日までしなかったような動作をしているなどの変化があっても、それが健康上の問題によるものなのか、成長過程における変化なのかを判断することは難しいものです。基本的にはミルクをしっかり飲んで、元気があれば、さほど心配することはないでしょう。
まずは「元気かどうか」を、しっかり見てあげてください。そして、ぐったりしている、機嫌が悪い、ミルクを飲まないなど、何か困っている症状があるときは、ためらわずに病院を受診してください。

なお、「熱を出したとき」「けいれん（ひきつけ）を起こしたとき」「おう吐・下痢のとき」「せき・ゼーゼー」「やけどをしたとき」「あたまをうったとき」の対処法については、神戸こども初期急病センターのホームページ内『こんなときどうする？』のページも参考にしてください。

<https://www.kobe-kodomoqq.jp/casestudy/>

いざ！お医者さんの仕事を知ろう！クイズ
(急性疾患学部門スタッフが作製に協力しました)

Q1
医師だけにできて救急隊（救急車の隊員）にはできない医療行為はどれ？

①気管（空気の通り道）にチューブを入れる
②傷口を縫う
③血管に注射する





答 スライド12へ

Q2
ヒトの赤血球に含まれる栄養素は次のうちどれ？

①鉄
②銅
③銀






答 スライド13へ

Q3
子供の急性リンパ性白血病の5年生存率は次のうちどれ？

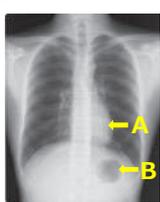
①10% ②50% ③90%



答 スライド14へ

Q4
右下はヒトのレントゲン写真です。A, Bは何でしょう？

①胃 ②脾臓
③膀胱 ④心臓



答 スライド15へ

Q5
5日以上の発熱と、発疹、眼の充血、赤い舌、手足・首の腫れの患者さんが来院しました。何の病気を考えればよいでしょう？

①インフルエンザ
②アデノウイルス感染症
③おたふくかぜ
④麻疹（はしか）
⑤風疹
⑥川崎病



答 スライド16へ

Q6
鼻血が出た時はどうしたらいい？

①はなをかむ
②うえをむく
③したむきにおさえる





答 スライド17へ

Q7
ヒトの体で最も重い器官はどれ？

①骨格筋 ②骨 ③脳





答 スライド18へ

Q8
 子供の熱性けいれんは何分以上続くと救急車を呼ばないといけない？

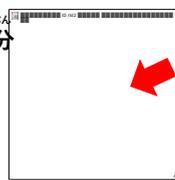
①1分
 ②5分
 ③30分



答 スライド19へ

Q9
 赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいるとき、赤ちゃんのまわりの水（羊水）は何でできているでしょう。

①お母さんが飲んだ水分
 ②血液（血）
 ③汗
 ④おしっこ



答 スライド20へ

Q10
 体の中に2つある臓器はどれでしょう。

①心臓 ②肝臓 ③腎臓 ④胃



答 スライド21へ

イザ！お医者さんの仕事/医療について学んでみよう！！

★…クイズのむずかしさ

Q1	★★★★	Q6	★☆☆
Q2	★★☆☆	Q7	★★★★
Q3	★★★★	Q8	★★☆☆
Q4	★★☆☆	Q9	★★★★
Q5	★★★★	Q10	★★☆☆

Q1 **こたえ②** 傷口を縫う

【解説】
 医師や救急救命士（救急隊）が行える行為は、医師法や救急救命士法などの法律で決められています。
 ②傷口の縫合は、医師にしかできない「医行為」に該当します。
 ①気管挿管や③静脈路確保は、訓練や研修をしっかりと行うことで、医師がその場になくても、電話による医師からの指示などに行えます。

問 スライド1

Q2 **こたえ①** 鉄

【解説】
 鉄分が不足すると鉄欠乏性貧血になります。鉄分は、レバー、赤身の肉、赤身の魚などに多く含まれています。



問 スライド2

Q3 **こたえ③** 90%



【解説】
 子供の急性リンパ性白血病は抗ガン剤が良く効き、5年生存率は90%程度にまで向上しています。

問 スライド3

Q4 **こたえ** A=④心臓 B=①胃

【解説】
 心臓は血液で満たされているので、X線が通りにくく（白っぽい）、胃は空腹時は空気で満たされているので、X線が通りやすい（黒っぽい）ため、このように見えます。脾臓・膵臓はレントゲンだけで見分けるのが困難です。



問 スライド4

Q5 **こたえ⑥** かわさきびょう 川崎病 問 スライド5

【解説】
 川崎病とは、1960年代に川崎富作氏によって報告された、
 子供（特に3歳未満に多い）に特有の病気です。
 子供の病気の中で意外と多く、適切に診断、治療をしないと、
 重篤な合併症を起こす可能性がある病気の一つです。

主な症状（4つ以上あてはまる場合は必ず病院を受診しましょう！）
 ① 5日以上続く発熱（38度以上） ② 発疹 ③ 眼球結膜（白目の部分）が赤くなる（=充血）
 ④ 唇が赤くなったり舌がイチゴ状に赤くなる ⑤ 手足の腫れ（熱が下がってから手足指先の皮がむける）
 ⑥ 首のリンパ節の腫れ



Q6 **こたえ③** したむきにおさえる 問 スライド6

【解説】
 ティッシュを鼻につめて、上を向いて、後ろ頭をトントン・・・では止まりません。
 子どもの鼻血の止め方としては間違っています。正しい処置のポイントは4つです。

1. ティッシュも何もつめないで、しっかり鼻をつまんでください。
2. 座らせて下の方に顔が向くようにします。
3. 目と目の間のおでこを冷やすと鼻血が止まりやすくなります。
4. この状態で5分がんばれば、鼻血は止まります。

広島県医師会 ホームページより



Q7 **こたえ①** こつかくきん 骨格筋 問 スライド7

【解説】
 骨格筋は身体を動かすのに必要な筋肉です。
 ヒトの身体の重さの30-50%を占めます。
 エネルギーの保存やホルモンの分泌など
 色々な役割もあります。



Q8 **こたえ②** 5分 問 スライド8

【解説】
 熱性けいれんは数分で自然と収まるのがほとんど
 ですが、5分以上続く場合には薬剤で止める必要が
 あることが多いです。
 対応に不安があればすぐに救急車を呼んでも大丈夫
 です。



Q9 **こたえ①②③④** ぜんぷ 問 スライド9

【解説】
 初めの羊水は、羊膜や赤ちゃんの皮膚からしみ出した水分です。
 その後、赤ちゃんが

- ① 羊水を飲む
- ② 肺や腸で吸収
- ③ 血液に入る
- ④ 腎臓でおしっこになる
- ⑤ 外に出す（⇒羊水になる）

を繰り返して赤ちゃんは大きくなります。



ユニ・チャーム ムーニー® ホームページより

Q10 **こたえ③** じんぞう 腎臓 問 スライド10

臓器が「1つだけある」意味や、または
 「2つある」理由は、特にありません。
 体の「真ん中」にできた臓器は1つのまま、
 「端っこ」にできた臓器は2つに分かれ
 やすいのです。

目、耳、鼻（の穴）や、手足も2つずつ！
 ⇒「活動能力」が増えます！

まんなか	はしっこ
	
じんぞう	はい
	
い・ちよう	じんぞう

5. 教員の活動

小児科学分野こども急性疾患学部門小児急性疾患学療域の活動

藤岡 一路

こども急性疾患学部門は、神戸市・神戸市医師会・神戸大学の三者の間で調印された「神戸市のこどもの生命と健康を守る協同事業推進に係る基本合意」の一環として、平成21年10月に設置された神戸市による寄附講座であり、開講後15年目を迎えました。平成31年4月より小児急性疾患学領域および小児統合健康学領域の2領域に分割され、令和5年5月より栗野先生の後任として藤岡が前者の特命教授に就任しました。令和5年度の小児急性疾患学領域のメンバーは、私と特命准教授である田村彰広先生、特命助教の南部静紀先生、北角英晶先生の合計4名です（図1）。

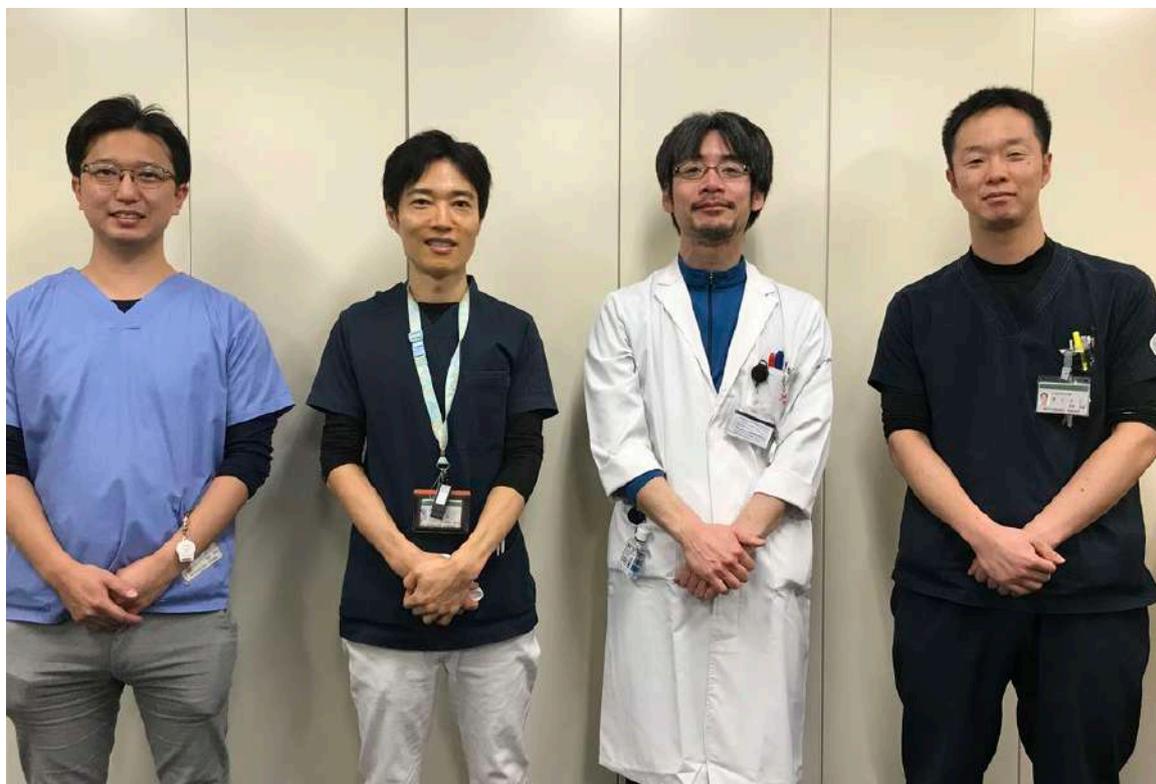


図1

神戸こども初期急病センター（石田明人センター長）との連携の元、これまで行ってきた小児初期診療教育、研修医教育、市民教育、研究活動を継続して参ります。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大による受診控え等の影響は完全に払拭され、受診患者数は以前と同程度まで回復し、昨年末から医師会卒の出務も復活し、以前のように活発な診療体制となっております。診療支援に関しては、神戸大学小児科の全面的な協力の元、センター稼働日の365日のうち74%にあたる269日をこども急性疾患学部門または神戸大学小児科の医師が出務しており、神戸市からも高く評価頂いております（図2, 2023年1月の出務状況）。

1/1(日)	1/2(月)	1/3(火)	1/4(水)	1/5(木)	1/6(金)	1/7(土)
急性疾患学	急性疾患学	神戸大	神戸大	神戸大	神戸大	神戸大
神戸大	神戸大	神戸大				
神戸大	神戸大					
1/8(日)	1/9(月)	1/10(火)	1/11(水)	1/12(木)	1/13(金)	1/14(土)
急性疾患学	神戸大	神戸大	神戸大		神戸大	神戸大
急性疾患学	神戸大					
神戸大						
神戸大						
1/15(日)	1/16(月)	1/17(火)	1/18(水)	1/19(木)	1/20(金)	1/21(土)
急性疾患学	急性疾患学		神戸大	神戸大		神戸大
神戸大						神戸大
神戸大						
1/22(日)	1/23(月)	1/24(火)	1/25(水)	1/26(木)	1/27(金)	1/28(土)
神戸大			神戸大			神戸大
神戸大						
神戸大						
神戸大						
1/29(日)	1/30(月)	1/31(火)				
神戸大	神戸大					

図2

私が本部門を引き継いだ昨年度が、神戸市との寄附講座の契約最終年であったこともあり、神戸市の担当部署（健康局）との折衝を引き継ぎました。幸いなことに、野津教授および前任の部門長である栗野先生の多大なご尽力のお陰で、令和6年度以降も引き続き神戸市の寄附講座として本部門が継続することが正式に決定しました。寄附講座の覚書作成にあたり、以前より実施していた既存事業に加えて、以下の新規要望事項が提案されたため、今年度内に対応可能な範囲で実績づくりに励みました。

- ①研究テーマには、市内小児科医の知識向上及び市民啓発に直接繋がるものを含むものとし、講演会等においてそれらの研究成果を小児科医または市民に対して還元すること。

より直接的な市民還元が必要であるとのことを受け、神戸市の子育て応援サイトのインタビューに応じました。極めて一般的な内容を誤解のないように慎重に解説したつもりですが、

このような小児科医であれば誰でも対応可能な案件であっても行政サイドとしては依頼先探しが一苦労なようで、今後もフットワーク軽く対応しようと思っております（図3）。



図3

②研究成果を市民に対して還元するため、市と連携を密にし、市が実施する市民向けの広報等に年間を通じて協力すること。併せて神戸子ども初期急病センターの運営広報を実施すること。

神戸市の本部門担当の川村さん（神戸大学卒、消防局から出向）が非常に精力的なことで、藤澤学長発案の神戸大学とラジオ関西のコラボ番組への出演枠を獲得してこられたため、六甲台キャンパスで以下の内容で収録を行ってきました。神戸子ども初期急病センターの意義について積極的にアピールしたつもりなのですが、どの部分が使われるのかは不明です（図4）。

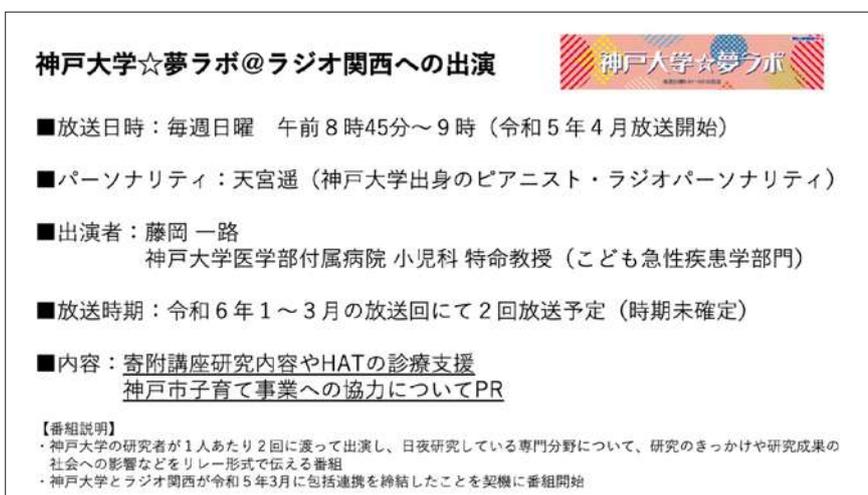


図4

同様に神戸子ども初期急病センターの広報活動の一環として、2024年1月28日にJICA関西/人と防災未来センターで開催されたHAT神戸連携防災イベント「イザ!美かえる大キャラバン!2024」(図5)に「いざ!お医者さんの仕事を知ろう!」という企画で藤岡と北角が参加しました。「救急に関するクイズに参加してもらい一緒に楽しく学べる内容になっています。医師の仕事

について、大学病院小児科の医師（神戸こども初期急病センター）に直接質問すること等もできます」という触れ込みでしたが、体感で200名以上の参加者にブースに来場いただき、我々4名+救急救命士の川村さんで作成したクイズも好評でした。「小児急性白血病の5年生存率は何%か? (答えは90%)」というクイズでは、偶然参加したJICAのアフリカ人研修生から「そんなに良い成績だとは知らなかった。日本の医療は素晴らしいと思った (というようなニュアンスの英語)」との回答を頂き、お子様以外にも楽しんでもらえるような市民参加型の広報活動ができたのではないかと考えております。

2月24日にも神戸市消防局主催の同様のイベントがハーバーランドumieで開催されるため、ブース出展を予定しています。

イベント概要

1.開催概要

- 開催日時 2024年1月28日(日) 13:00~16:00
- 会場 JICA関西/人と防災未来センター
- 入場料 無料
- 共催 JICA関西/国際防災研修センター、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター、兵庫県立美術館、公益財団法人兵庫県国際交流協会
- 企画・運営協力 NPO法人プラス・アーツ

2.会場案内

- 施設名称 JICA関西
人と防災未来センター
- 所在地 神戸市中央区筋浜西岸通1-5-2
- アクセス 阪神「須屋」駅から徒歩約10分
阪神「春日野」駅から徒歩約12分
JR「美」駅から徒歩約12分

▼アクセスマップ

図5



図6

- ③市が行う救急隊、保健師及び保育士の小児救急に関する研修等における指導について、市からの要請に対して協力すること。
- ④救急安心センターこうべ（#7119）における小児電話相談領域の安定運営のため、市からの要請に応じ、定例または適宜開催される関係会議に参加すること。

令和5年度中には実施ができませんでしたが、令和6年度は上記③、④に関しても要請が予定されており、粛々と協力していく予定です。

また、COVID-19の流行を契機に開催が途切れておりました神戸市小児救急ケースカンファレンスについても、こども病院救急科の林卓郎先生のご協力のもと2024年1月18日に再開することができました。令和6年度以降、定期的な開催を目指していきます（図7）。

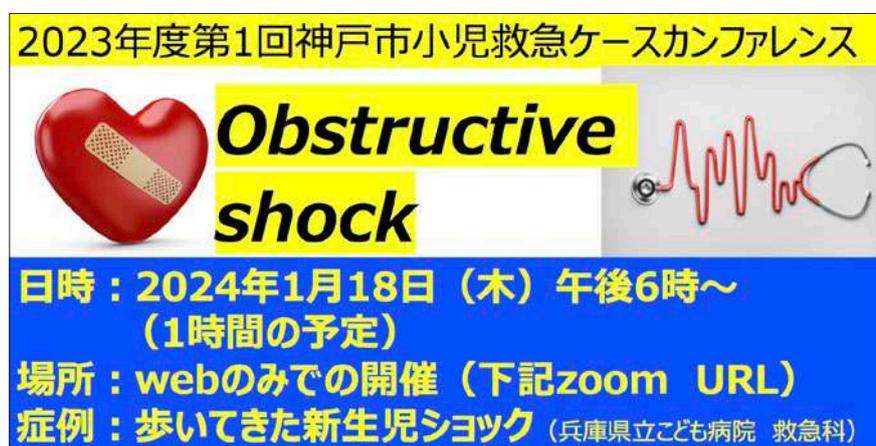


図7

研究

神戸こども初期急病センターは、年間約25万人以上もの小児患者が受診するため、他施設では収集し得ないほどの大規模な基礎疾患を有さない小児急性疾患患者の情報および臨床検体を有しております。これらの資源を最大限有効に活用し、小児急性疾患の病態解明および疫学・公衆衛生学的研究を進めて参ります。

令和5年度は藤岡が着任直後であり、私自身は正直研究まで手が回っておりませんでした。神経グループ大学院生の鮫島先生が「小児におけるCOVID-19の臨床的特徴に関する研究」を計画中であり、こども病院救急科の松井鋭先生が「小児初期急病センター受診患者の特徴と疾患割合の調査」を実施中です。神戸こども初期急病センターの資源を活用した疫学的研究のアイデアをお持ちの先生方がおられましたら、石田センター長への取次含めて是非ご協力させていただきたいと考えておりますので、お声がけの程を何卒よろしくお願いいたします。

以上のように、こども急性疾患学部門小児急性疾患学領域の最大の使命である急性疾患に関して教育・臨床・研究の体制の整備をいっそう推し進めて参りますので、同門会の先生方には今後も変わらずご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

田村 彰広

2023年7月よりこども急性疾患学部門特命准教授を拝命しております田村彰広です。神戸こども初期急病センターには、月2回程出務させていただき、こどもの急性疾患を診療させていただいています。神戸大学病院では病棟・外来での診療、および外来医長を務めさせていただいております。

現在、小児の急性疾患の中でも特に川崎病に着目して研究を行っております。川崎病は小児の非感染性発熱性疾患の中で最も多い疾患の一つです。川崎病では、血管に炎症をきたし、最も高頻度に侵襲されるのは冠動脈です。初期治療として免疫グロブリン療法が選択されますが、免疫グロブリン治療不応例は急性期の炎症反応が長期間続くことで重症化し、冠動脈をはじめとする心臓血管後遺症を発症する危険性が高くなります。わが国において川崎病の発症頻度は欧米に比べ高く、国内の新規発症数も増加傾向です。これまで多くの研究で病態の解明が試みられてきたが未だに病態が解明できておらず、病態の解明と治療開発が望まれています。また、症状からは川崎病と鑑別困難な類似疾患も存在しており、鑑別に有用なバイオマーカーの確立も求められています。

川崎病の病態には単球・マクロファージが関与していることが示唆されています。そのため、フローサイトメトリーを用いて単球・マクロファージを含めた免疫細胞の動態や解析することで、病態解明や、重症化する患者さんの予測や、川崎病類縁疾患との鑑別が可能になると考え、研究を進めています。

神戸こども初期急病センターを受診された患者さんの中で、川崎病が疑われ、神戸大学医学部附属病院や兵庫県立こども病院に後送になった患者さんのうち、同意が得られた患者さんについては、経過を追跡し、病態解明やバイオマーカー同定のために血液の一部を解析させていただいております。今後、成果を報告できるように、研究をすすめていきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

BSL、チュートリアルやOSCEの指導を担当させていただきました。少しでも小児科に興味を持って頂けるように、これからも学生の教育に力を入れていきたいと思っております。

引き続き、臨床・研究・教育の研鑽を積んでいく所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

2023年4月よりこども急性疾患学部門特命助教の任を賜りました、2016年（平成28年）卒の北角英晶と申します。科内では腎グループに所属し臨床・教育・研究に従事しており、この度2023年度の活動についてご報告いたします。

神戸こども初期急病センター

HAT神戸の当センターの当直業務に従事し、平日夜間や休日における神戸市の一次救急医療の一端を担いました。

また啓蒙活動としては、2024年1月28日（日）にJICA関西で開催されましたHAT神戸連携防災イベント「イザ！美かえる大キャラバン！2024」と、同2月24日（土）に神戸ハーバーランドUmieで開催されましたファミリー向け防災イベント「学ぼうさい2024」におきまして、当センターの出展ブースを設けていただきました。当日は①親子のみなさまへのクイズ出題や②白衣・スクラブの試着と記念撮影を行い、いずれも多くの方のみなさまに会場いただきました。みなさまが、こちらの出題するクイズに真剣に取り組み、また写真撮影に楽しんでくださる様子を間近に拝見し、日々の診療への思いを新たにすることができました。

臨床



腎グループの一員として小児腎疾患の診療を行っており、主に毎週月・水曜日の当科腎外来を担当させていただきました。臨床は外来診療がメインですが、病棟診療におきましても腎生検施行時の支援等も行っています。担当患者は検尿異常や腎炎・ネフローゼ症候群が中心ですが、希少疾患にふれる機会も多く、非常に勉強になっております。当科の勤務が3年目となり、以前に入院管理を担当した患者さんが元気になり、無事に就学や進学などの節目を迎える様子を見届けることは、一小児科医として非常に感慨深い思いです。

教育

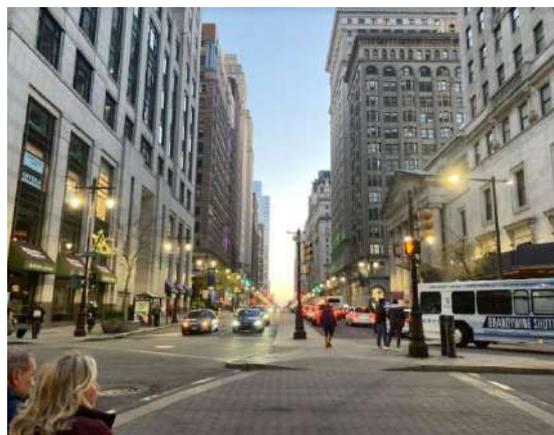
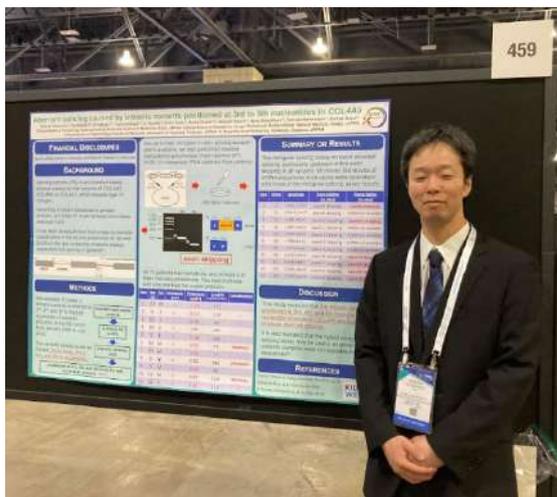
2023年度は主に4回生と5回生の教育を担当させていただきました。4回生は、臨床医学講義

での指導や、チュートリアルモデルの症例や講義、試験問題の調整等を行いました。まだ病院実習をしておらず、実感のない状態で学生に対してどのように小児科に興味をもち、学んでもらうかという点に腐心しました。5回生は、病院実習（Bed Side Learning）の腎グループ配属学生に、主に小児腎疾患患者の診察や病態などの指導を担当しました。小児科により興味をもってもらえるよう心がけています。

研究

全国から提供いただいた検体を用いて、Alport症候群を中心に、次世代シーケンサーによる網羅的な遺伝学的検査の解析を行いました。またその上で、スプライシング異常が疑わしい症例はIn vitro解析としてminigene splicing analysisも行い、スプライシング異常の有無を確認しております。

上記などの結果をもとに、2023年度に海外学会でポスター2題（日中韓小児腎セミナー、米国腎臓学会）と国内学会で口演4題（日本小児科学会、日本小児腎臓病学会（2）、日本腎臓学会）の発表の機会を頂き、自身の研究進捗の反省とともに励みや刺激を得ることができました。特に海外学会では、英語でのプレゼンテーションや質疑応答に難渋し、貴重な経験となりました。2024年度におきましては、さらに研究をすすめる患者のみなさまに役立つ成果を残したいと考えております。



終わりに

当センターのスタッフのみなさまや大学病院スタッフをはじめ、多くの方々に支えられた1年でした。今後、神戸の子どもたちとご家族のみなさま、そして当センターに少しでも貢献できますよう努力してまいりますので、引き続きのご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくご厚意申しあげます。

2023年5月よりこども急性疾患学部門特命助教を拝命しております、南部静紀と申します。2023年度の活動についてご報告いたします。

臨床：

神戸こども初期急病センターに月2回程度出務し、診療業務に従事いたしました。受診されるこどもにはなるべく最適な医療が提供でき、ご家族のご不安が軽減できるように心掛けて日々出務させていただきました。引き続き小児一次救急医療に従事し、神戸市の掲げる「子育てしやすいまち」に微力ながら尽力させて頂きたいと思っております。

神戸大学附属病院では主に筋疾患の分野の臨床を担当しております。外来や病棟で筋ジストロフィーをはじめとする神経筋疾患の診療をしております。筋疾患領域は従来治療薬のない疾患がほとんどでしたが、例えばDuchenne型筋ジストロフィーでは遺伝型によってはエクソンスキッピング薬による治療が可能となり、またウイルスベクターによる遺伝子補充療法も米国で承認されるなど、様々な変化がある領域となっております。今後もより早く患者さんに治療薬をお届けできるよう、診療、治験等を継続いたします。

研究：

2022年4月から大学院生として神戸大学幹細胞医学分野に所属し、基礎研究を行っております。Duchenne型筋ジストロフィー患者さんの血液から樹立したiPS細胞を心筋細胞に分化誘導し、細胞表現型の評価を行っております。患者さん、臨床に役立てるような成果がでるように引き続き努力いたします。

教育：

医学部生への系統講義、チュートリアル、6年生の臨床実習を担当いたしました。6年生の臨床実習は小児科を志望している方も多く、こちらも刺激を受けながら学ぶことができました。急性疾患学部門に所属する教員として、小児科の魅力、特に外来での小児診察の楽しさを伝えることに力を入れており、神戸こども初期急病センターでの経験を実習や講義に反映させています。学生たちに小児科への興味を持ってもらえるよう、教育内容を工夫しながら教員活動に取り組んでいます。

2024年4月からは小児神経学・発達行動小児科学部門（旧こども総合療育学部門）の所属となりますが、神戸こども初期急病センターには引き続き出務させて頂きますので、何卒よろしく願いいたします。

新任教員のあいさつ

石森 真吾

2024年度から神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野 こども急性疾患学部門 特命講師を拝命いたしました、石森真吾と申します。諸先生方とともにこども急性疾患学部門の発展に尽力させて頂ければと存じます。前任地である大阪府から、6年ぶりの兵庫県勤務となります。ちなみに2012年度にはこども急性疾患学部門 特命助教として従事させて頂いておりました。こども急性疾患学部門としては12年ぶりの復帰となります。これまでに行ってきた自身の取り組みや、当部門における自身の果たすべき今後の展望についてご紹介させていただきます。

診療に対する取り組みと抱負

私は2013年に加古川中央市民病院（旧 加古川西市民病院）へ赴任し、2次小児病院における小児科常勤医として小児腎疾患診療を担いました。当時は小児救急専属医及び小児集中治療専属医は希少であり、一小児科医が1次2次救急医療やICU管理を行っている時代でした。慢性腎炎のステロイドや各種免疫抑制薬管理を行いかつ、救急外来でCommon diseaseの診療からいれん重責や重症急性呼吸障害例の気管挿管まで、幅広い診療を担当させて頂きました。さらに2015-2016年に従事した国立成育医療研究センター腎臓・リウマチ・膠原病科での経験を活かし、2016年に加古川中央市民病院に復帰後、アフェレシス療法として主に大量免疫グロブリン療法不応性の川崎病に対する血漿交換療法を立ち上げました。同施設のICUでは小児のアフェレシス療法の経験がなく、ICU専従看護師・小児センター専従看護師・アフェレシス療法に精通している医療技師と連携を綿密に図りました。実際の導入に向けて、座学での小児アフェレシス療法に対する知識の向上、トラブルシューティングの確認、成人透析機器と小児透析機器を実際に比較し違いの認識、などを事前に行いシミュレーションを繰り返した思い出があります。大量免疫グロブリン療法不応性川崎病計3例に対し血漿交換療法を導入することとなり、有害事象なく完遂することが可能でした。

2018年に高槻病院に赴任し、小児科常勤医として小児腎疾患診療を担いました。同院は3次小児病院として小児集中治療専属医が従事しており、PICU常設に加えて3次救急医療を行っており私もその一役を担うこととなりました。重症度に限らない外傷診療から深鎮静による脳保護療法や体外循環療法（血漿交換療法や持続血液濾過透析など）まで幅広い診療を担当させて頂きました。兵庫県下における外傷診療は、小児科医ではなく救急医の担当であることが主流であり、自身もこれまでに小児外傷診療に携わった経験がなかったため、非常に有意義な経験でした。

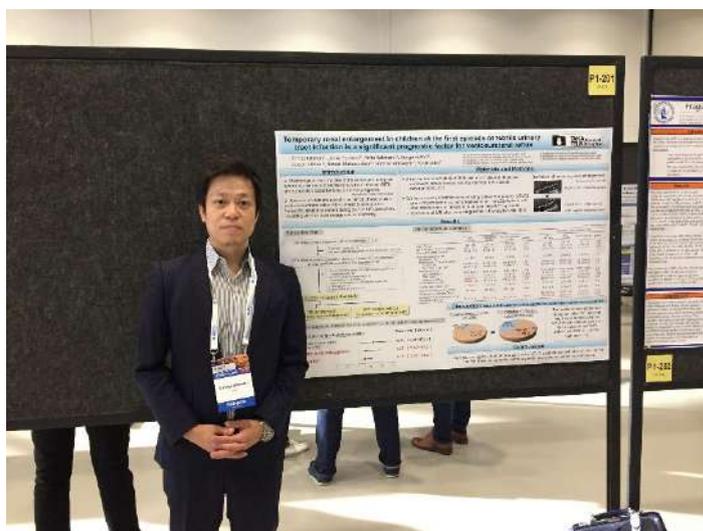
自身は小児腎臓専門医である一方、上記のような経験から小児急性疾患診療に大きく貢献できるものと自負しております。神戸を中心とした領域における小児救急医療に貢献できるよう、尽力させていただきます。

研究に対する取り組みと抱負

私は腎疾患に関する遺伝学的研究や病理組織学的分析といった腎臓関連疾患研究に従事してきた一方で、小児Common diseaseかつ市中病院で果たすべき臨床研究に携わってきました。

神戸大学関連病院計7施設と連携して初発発熱性尿路感染症の小児に対する多機関共同後方視的コホート研究を計画し、初発時の腎腫大（超音波検査での腎長径増大）は有意に反復性尿路感染症と関連することを同定し報告しました（19th International Pediatric Nephrology Association Congress 2022発表【写真】、Ishimori S et al. Sci Rep 2024）。軽症～中等症呼吸障害を呈するRSウイルス感染症小児に対する後方視的コホート研究を計画し、持続陰圧換気法非継続のリスクファクターを同定し報告しました（Ishimori S et al. Sci Rep 2021）。この報告に追随し、小児領域における非侵襲的換気法は大学病院やこども病院といった3次医療施設ではなく多くの小児2次医療施設で提供される医療であることを前提として、神戸大学関連病院計3施設と連携して多機関共同前方視的コホート研究を計画し現在遂行中です（非侵襲的換気法を導入した小児急性呼吸障害例を対象とし、Primary outcomeを非侵襲的換気法の非継続に関する因子の探索とした。2024年現在、約90例を登録）。上記のような経験から小児急性疾患における様々な研究にも携わり、急性疾患学における1次救急施設で果たすべき臨床研究を計画していく予定です。

末筆になりますが神戸市や兵庫県の小児急性疾患への貢献を念頭に、診療および研究の双方の一役を担うべく精進させて頂く所存ですので今後ともよろしく願いいたします。



19th International Pediatric Nephrology Association Congress 2022 Canadaにて

6. 研究

年間25,000人以上の子ども達が受診する神戸こども初期急病センターの臨床情報、検査データおよび残余検体を活用し、小児急性疾患の特徴、重症児の対応とその後の経過の調査、ワクチンの有効性の評価など、独自の視点で研究を進めております。

現在行っている研究テーマの研究内容（倫理委員会承認情報公開文書）および本部門所属教員の業績を掲載します。

発熱に伴うけいれん・意識障害患者を対象としたサイトカインの急性脳症早期診断

マーカーとしての有効性に関する前方視的観察研究

はじめに

神戸大学医学部附属病院小児科では、発熱に伴いけいれん・意識障害を認めた患者さんを対象に研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

1. 研究概要および利用目的

神戸大学医学部附属病院小児科では、熱性けいれんと急性脳症の患者さんに対して研究を行っています。発熱に伴うけいれん・意識障害をきたす病気に、熱性けいれんと急性脳症が²あります。ほとんどの場合が熱性けいれんで予後良好ですが、中に急性脳症の人が含まれており、その場合は重い後遺症を残すことがあります。したがって、発熱にけいれん・意識障害を伴う子供の中から、急性脳症を見つけ出し、早く治療を開始することが望まれます。熱性けいれんと急性脳症のしくみは判っておらず、症状が出てすぐに両者を区別する方法は現在ありません。そこでこの研究の目的は、熱性けいれんと急性脳症を早期に区別する方法を見つけることです。この研究により急性脳症による後遺症低減に役立つことが期待されます。

2. 研究期間

この研究は、神戸大学倫理委員会承認日から2025年12月31日まで行う予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・臨床情報: 生年月日、来院年月日時、性別、身長、体重、既往歴、最終の飲水・摂食時刻、
発症時刻、発症時けいれん、けいれん発症日時、けいれん消失日時、症状の経過、
意識レベル(発症後6時間後、12時間後、24時間後、48時間後)、
片麻痺の有無(発症後6時間後、12時間後)、覚醒時刻、退院年月日、診断など
- ・血液検査・尿検査の結果: 肝機能の指標となるもの(AST、ALT)
腎機能の指標となるもの(尿素窒素、クレアチニン)
炎症の指標となるもの(白血球、CRP) など
- ・その他、頭部MRI・CT、脳波など

4. 研究機関

この研究は以下の研究機関と責任者のもとで実施いたします。

代表研究機関

神戸大学附属病院 (研究代表者: 永瀬裕朗)

共同研究機関

加古川中央市民病院 (研究責任者: 親里 嘉展)

神戸子ども初期急病センター (施設責任者: 石田 明人)

高槻病院 (研究責任者: 服部有香)

姫路赤十字病院 (施設責任者: 高見 勇一)

5. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は各施設の研究責任者が保管・管理します。

6. 個人情報の管理方法

プライバシーの保護に配慮するため、患者さんの試料や情報は直ちに識別することができないよう、対応表を作成して管理します。収集された情報や記録は、パスワードで管理された web 上のデータサーバーに保管し、神戸大学大学院医学研究科小児科学研究所の鍵のかかる保管庫に保管します。

7. 試料・情報等の保存・管理責任者

この研究の試料や情報を保存・管理する責任者は以下のとおりです。

代表研究機関

神戸大学医学部附属病院 小児科 責任者:永瀬裕朗

8. 研究へのデータ提供による利益・不利益

利益・・・本研究にデータをご提供いただく事で生じる個人の利益は、特にありません。

不利益・・・カルテからのデータ収集のみであるため、特にありません。

9. 研究終了後のデータの取り扱いについて

患者さんよりご提供いただきました試料や情報は、研究期間中は神戸大学大学院小児科において厳重に保管いたします。ご提供いただいた試料や情報が今後の医学の発展に伴って、他の病気の診断や治療に新たな重要な情報をもたらす可能性があり、将来そのような研究に使用することがあるため、研究終了後も引き続き神戸大学大学院小児科で厳重に保管させていただきます。(保管期間は最長で10年間です。)

なお、保存した試料や情報を用いて新たな研究を行う際は、医学倫理委員会の承認を得た後、情報公開文書を作成し病院のホームページに掲載します。

ただし、患者さん及び代諾者・保護者の方が本研究に関するデータ使用の取り止めに申出された場合には、申出の時点で本研究に関わる情報は復元不可能な状態で破棄いたします。

10. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合には、患者さんを特定できる情報は利用しません。

11. 研究へのデータ使用の取り止めについて

いつでも可能です。取りやめを希望されたからといって、何ら不利益を受けることはありませんので、データを本研究に用いられたくない場合には、下記の[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合には、結果を廃棄できない場合もあります。

12. 問い合わせ窓口

この研究についてのご質問だけでなく、患者さん及び代諾者・保護者の方がデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、ご自身のデータの使用を望まれない場合など、この研究に関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

神戸大学医学部附属病院 小児科 担当者:富岡和美

神戸市中央区楠町 7-5-2

078-382-6090

研究責任者：

神戸大学医学部附属病院 小児科 永瀬裕朗

研究代表者：

神戸大学医学部附属病院 小児科 永瀬裕朗

患者さん及び代諾者の方へ

**「B型肝炎ワクチン定期接種開始後のB型肝炎ウイルス感染
およびワクチン効果の実態調査」
について**

はじめに

神戸こども初期急病センター(当センター)を受診され、血液検査を受けられた患者さんの血液の残りをを使って、B型肝炎の抗体価を測定し、B型肝炎ワクチンの定期接種の開始後のこどものB型肝炎ウイルス感染実態の調査と、B型肝炎ウイルスに対する抗体獲得率、抗体持続期間を明らかにする研究を行います。内容については下記のとおりとなっております。尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております【問い合わせ窓口】までご連絡ください。

1. 研究概要および利用目的

B型肝炎は、B型肝炎ウイルスによって引き起こされる病気です。このウイルスが体に入ると肝炎をおこします。また長く肝臓にすみつくと、肝硬変や肝がんを引き起こします。

B型肝炎ウイルス感染予防のため、日本では2016年10月からすべての乳児を対象として、B型肝炎ワクチンの定期接種が開始されました。定期接種が開始された後の調査では、ワクチンの感染予防の有効性が示されるデータが得られましたが、抗体陽性率(抗体をもつ者の割合)の経年的な低下がみられるなど、長期の効果についてはまだまだわからないことがあります。

そこで、この研究では定期接種開始後の長期のB型肝炎ウイルス感染実態を調査します。そのためにB型肝炎ウイルス抗体価を測定し、抗体獲得率、抗体持続期間を評価します。この研究の結果から、定期接種の長期の有効性が明らかになります。また追加接種の必要性を検討することができ、今後のB型肝炎ウイルス感染症の制御対策に有用な知見が得られます。

2. 研究期間および対象患者さん

2022年8月26日から2024年1月31日の期間に、当センターを受診され血液検査をうけ、親権者より血液の残りをを用いた解析や臨床データの使用に関し同意をいただいた患者さんを対象とします。本研究は2024年3月31日まで実施いたします。

3. 取り扱うデータ

診療録(カルテ)から年齢、性別、基礎疾患、B型肝炎ワクチンの予防接種歴の情報を収集します。血液の残り(血清)を用いて、血清HBs抗体価、HBc抗体価を測定します。HBc抗体価陽性でB型肝炎ウイルスに感染したと判断される場合は、血清に余りがあればHBs抗原、HBV-DNA、HBV genotypeの検査を行います。血清は株式会社LSIメディエンスが回収し、つくば臨床検査教育・研究センターつくばi-Laboratory LLPで測定されます。

4. 個人情報保護の方法

個人情報、検査結果などの記録、保管は第三者が直接患者さんを識別できないよう登録時に定めた登録番号を用いて行います。それらのデータは神戸大学附属病院小児科医局において厳重に保管します。

5. 研究へのデータ提供による利益・不利益

利益・・・本研究にデータをご提供いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことはございません

不利益・・・カルテからのデータ収集のみであるため、特にありません。

6. 研究終了後データの取り扱いについて

研究中止後または終了後 5 年が経過した日まで、血清の余りは東京大学医科学研究所で、データは神戸大学医学部附属病院小児科で保管されます。その後は患者さん個人を特定できない状態にして廃棄します。

7. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人情報は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報が明らかになることはありません。

8. 研究へのデータ使用の取り止めについて

いつでも可能です。取りやめを希望されたからといって、何ら不利益を受けることはありませんので、データを本研究に用いられたくない場合には、下記【問い合わせ窓口】までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、ご希望に対応できない場合もあります。

9. 問い合わせ窓口

この研究についてのご質問だけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。

神戸大学医学部附属病院小児科こども急性疾患学部門 粟野宏之
連絡先:078-382-6090(小児科医局)

* 本研究に関する情報は神戸大学医学部附属病院のホームページにも概要を掲示しております。
(以下にアクセスしてください。)

URL : <http://www.med.kobe-u.ac.jp/pediat/research/kodomo.html>

患者さん及び代諾者の方へ

「神戸こども初期急病センターにおける受診患者の特徴と疾患割合の調査」 について

はじめに

今回、神戸こども初期急病センター(当センター)を受診された患者さんのカルテ情報をもとに、受診された患者さんの疾患割合と疾患特異性を調査する研究を行います。内容については下記のとおりとなっております。尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております【問い合わせ窓口】までご連絡ください。

1. 研究概要および利用目的

当センターには、非常に多くの患者さんが来院します。その中には、病状が軽い方から重い方まで様々な状態の患者さんがいます。

本研究は、当センターにおいて、受診患者さんの動向や受診時間帯、症状の特徴と割合、疾患の特徴と割合、重症患者さんの特徴と割合等を明らかにすることで、当センターの役割を解明するとともに、今後の当センターのあり方、改善方法を検討するための資料として活用します。

2. 研究期間および対象患者さん

2016年4月1日から2022年3月31日の期間に、当センターを受診され、親権者より診療録(カルテ)データの使用に関し同意をいただいた患者さんを対象とし、カルテに登録されている情報を元に研究を行います。本研究は2025年3月31日まで実施いたします。

3. 取り扱うデータ

患者さんの年齢、性別、受診した日時、症状、受診時の臨床的所見(バイタルサイン、診察所見)、検査を行っていた場合はその検査結果、疾患名、センター内処置、高次施設への紹介を要した場合は紹介先の情報と紹介先からの返書における診断名

4. 個人情報保護の方法

個人情報、検査結果などの記録、保管は第三者が直接患者さんを識別できないよう登録時に定めた登録番号を用いて行います。それらのデータは当センターにおいて厳重に保管します。

5. 研究へのデータ提供による利益・不利益

利益・・・本研究にデータをご提供いただいた患者さん個人には特に利益と考えられるようなことはございません。

不利益・・・カルテからのデータ収集のみであるため、特にありません。

6. 研究終了後データの取り扱いについて

研究終了後には、データは、患者さん個人を特定できない状態にして廃棄します。

7. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人情報の秘密は厳重に守られますので、第三者に患者さんの個人情報が明らかになることはありません。

8. 研究へのデータ使用の取り止めについて

いつでも可能です。取りやめを希望されたからといって、何ら不利益を受けることはありませんので、データを本研究に用いられたくない場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください。取り止めの希望を受けた場合、それ以降、患者さんのデータを本研究に用いることはありません。しかしながら、同意を取り消した時、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、ご希望に対応できない場合もあります。

9. 問い合わせ窓口

この研究についてのご質問だけでなく、患者さんのデータが本研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、患者さんのデータの使用を望まれない場合など、この研究プロジェクトに関することは、どうぞ下記の窓口までお問い合わせ下さい。

神戸大学医学部附属病院小児科 栗野宏之

連絡先：078-382-6090（小児科医局） 平日 10-16 時

* 本研究に関する情報は神戸大学医学部附属病院のホームページにも概要を掲示しております。（以下にアクセスしてください。）

URL： <http://www.med.kobe-u.ac.jp/pediat/research/kodomo.html>

業績 (英文誌)

1. Incidence of Neonatal Seizures in China Based on Electroencephalogram Monitoring in Neonatal Neurocritical Care Units. Yan K, Cheng G, Zhou W, Xiao F, Zhang C, Wang L, Zhang P, Lu C, Kong Y, Wang X, Zhou Y, Lu W, Tang J, Song X, Wei Q, Meng D, Yao L, Zhuang D, Qu L, Xu Q, Yin Z, Su L, Wan J, Si Y, **Fujioka K**, Mussap M, Kanungo S, Bhandari V, Huang W, Pan X, Zhou W; China Neonatal Neuro-Critical Care Network group. *JAMA Netw Open*. 2023 Jul 3;6(7): e2326301. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2023.26301.
2. Physiologically-based pharmacokinetic model to investigate the effect of pregnancy on risperidone and paliperidone pharmacokinetics: Application to a pregnant woman and her neonate. Mahdy WYB, Yamamoto K, Ito T, Fujiwara N, **Fujioka K**, Horai T, Otsuka I, Imafuku H, Omura T, Iijima K, Yano I. *Clin Transl Sci*. 2023 Apr;16(4):618-630. doi: 10.1111/cts.13473.
3. Editorial: Case reports in pediatric infectious diseases 2022. Van Rostenberghe H, **Fujioka K**, Van der Linden D. *Front Pediatr*. 2023 Mar 29; 11:1155075. doi: 10.3389/fped.2023.1155075. eCollection 2023.
4. Vertical Transmission of Coxsackievirus A6 with Severe Congenital Pneumonia/Sepsis. Nakasone R, Ogi M, Kawamura A, Miyake O, Kido T, Abe S, Takahashi N, Nozu K, **Fujioka K**. *Int J Environ Res Public Health*. 2023 Feb 6;20(4):2843. doi: 10.3390/ijerph20042843.
5. Advantages of sensor-augmented insulin pump therapy for pregnant women with type 1 diabetes mellitus. Imafuku H, Tanimura K, Masuko N, Tomimoto M, Shi Y, Uchida A, Deguchi M, **Fujioka K**, Yamamoto A, Yoshino K, Hirota Y, Ogawa W, Terai Y. *J Diabetes Investig*. 2023 Dec;14(12):1383-1390. doi: 10.1111/jdi.14075.
6. Association of Neonatal Serum Creatinine Concentration with Maternal Serum Creatinine Concentration and Birth Weight. Kiyoshige A, Osawa K, Watanabe Y, Watanabe Y, Satou I, Imanishi T, Ashina M, **Fujioka K**, Yano Y, Saegusa J. *Clin Lab*. 2023 Mar 1;69(3). doi: 10.7754/Clin.Lab.2022.220601.PMID: 36912297
7. Correlation of cytomegalovirus viral load between whole blood and plasma of congenital cytomegalovirus infection under valganciclovir treatment. Torii Y, Morioka I, Kakei Y, **Fujioka K**, Kakimoto Y, Takahashi N, Yoshikawa T, Moriuchi H, Oka A, Ito Y. *BMC Infect Dis*. 2023 Jan 19;23(1):31. doi: 10.1186/s12879-023-07995-6.
8. Fetal Ultrasound and Magnetic Resonance Imaging Abnormalities in Congenital Cytomegalovirus Infection Associated with and without Fetal Growth Restriction. Tanimura K, Uchida A, Uenaka M, Imafuku H, Tairaku S, Hashimura H, Ueno Y, Kido T, **Fujioka K**. *Diagnostics (Basel)*. 2023 Jan 13;13(2):306. doi: 10.3390/diagnostics13020306.
9. Inoue S, Win KHN, Mon CY, Fujikawa T, Hyodo S, Uemura S, Ishida T, Mori T, Hasegawa D, Kosaka Y, Nishimura A, Nakatani N, Nino N, **Tamura A**, Yamamoto N,

- Nozu K, Nishimura N. *Oncol Lett*. Higher levels of minimal residual disease in peripheral blood than bone marrow before 1st and 2nd relapse/regrowth in a patient with high risk neuroblastoma: A case report. *Oncology Letters*. 2023 Jul 14;26(3):369. doi: 10.3892/ol.2023.13955. eCollection 2023 Sep. PMID: 37559575
10. Suzuki R, Sakakibara N, Ichikawa Y, **Kitakado H**, Ueda C, Tanaka Y, Okada E, Kondo A, Ishiko S, Ishimori S, Nagano C, Yamamura T, Horinouchi T, Okamoto T, Nozu K. Systematic Review of Clinical Characteristics and Genotype-Phenotype Correlation in LAMB2-Associated Disease. *Kidney Int Rep*. 2023 Jul 4;8(9):1811-1821. doi: 10.1016/j.ekir.2023.06.019. eCollection 2023 Sep. PMID: 37705905
 11. Nagai S, Horinouchi T, Ninchoji T, Ichikawa Y, Tanaka Y, **Kitakado H**, Ueda C, Kondo A, Aoto Y, Sakakibara N, Kaito H, Tanaka R, Shima Y, Fujimura J, Kamiyoshi N, Ishimori S, Nakanishi K, Yoshikawa N, Iijima K, Nozu K. Long-term outcome of combination therapy with corticosteroids, mizoribine and RAS inhibitors as initial therapy for severe childhood IgA vasculitis with nephritis. *Pediatr Nephrol*. 2023 Dec;38(12):4023-4031. doi: 10.1007/s00467-023-06052-3. Epub 2023 Jun 29. PMID: 37380934
 12. Okada E, Horinouchi T, Yamamura T, Aoto Y, Suzuki R, Ichikawa Y, Tanaka Y, Masuda C, **Kitakado H**, Kondo A, Sakakibara N, Ishiko S, Nagano C, Ishimori S, Usui J, Yamagata K, Matsuo M, Nozu K. All reported non-canonical splice site variants in GLA cause aberrant splicing. *Clin Exp Nephrol*. 2023 Sep;27(9):737-746. doi: 10.1007/s10157-023-02361-x. Epub 2023 May 31. PMID: 37254000
 13. Ichikawa Y, Horinouchi T, Tanaka Y, Ueda C, **Kitakado H**, Kondo A, Sakakibara N, Yoshikawa N, Nozu K. IgA nephropathy in a boy with frequently relapsing nephrotic syndrome. *CEN Case Rep*. 2024 Feb;13(1):14-18. doi: 10.1007/s13730-023-00791-w. Epub 2023 Apr 24. PMID: 37088833
 14. Horinouchi T, Ueda C, **Kitakado H**, Yoshikawa N, Nozu K. Steroid resistant nephrotic syndrome with collapsing focal segmental glomerulosclerosis in a 12-year-old Japanese female after SARS-CoV-2 vaccination. *J Nephrol*. 2023 Jun;36(5):1435-1438. doi: 10.1007/s40620-023-01577-0. Epub 2023 Feb 16. PMID: 36795315
 15. Shoko Sonehara, Ryosuke Bo, **Yoshinori Nambu**, Kiiko Iketani, Tomoko Lee, Hideki Shimomura, Masaaki Ueda, Yasuhiro Takeshima, Kazumoto Iijima, Kandai Nozu. Newborn Screening for Spinal Muscular Atrophy: A 2.5-Year Experience in Hyogo Prefecture. *Japan. Genes* 14(12) 2211-2211, 2023
 16. Tetsushi Yamamoto, **Yoshinori Nambu**, Ryosuke Bo, Shotaro Morichi, Misato Yanagiya, Masafumi Matsuo, Hiroyuki Awano. Electrocardiographic R wave amplitude in V6 lead as a predictive marker of cardiac dysfunction in Duchenne muscular dystrophy. *Journal of Cardiology* 82(5) 363-370. 2023 Nov
 17. Hanafusa H, Yamaguchi H, Kondo H, Nagasaka M, Juan Ye M, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Nishiyama M, Morisada N, Matsuo M, Nozu K, **Nagase H**. Dravet syndrome

- and hemorrhagic shock and encephalopathy syndrome associated with an intronic deletion of SCN1A. *Brain Dev.* 2023;45:317-323.
18. Kanatani S, Yamaguchi H, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Nishiyama M, Nozu K, **Nagase H**. A Case of Generalized Myasthenia Gravis Exacerbated by COVID-19. *J Pediatr Neurol.* 2023;21: 450-452
 19. Tomioka K, Nishiyama M, Tokumoto S, Yamaguchi H, Aoki K, Seino Y, Toyoshima D, Kurosawa H, Tada H, Sakuma H, Nozu K, Maruyama A, Tanaka R, Iijima K, **Nagase H**. Time course of serum cytokine level changes within 72h after onset in children with acute encephalopathy and febrile seizures. *BMC Neurol.* 2023; 23:7.
 20. Tanaka T, Yamaguchi H, Ishida Y, Tomioka K, Nishiyama M, Toyoshima D, Maruyama A, Takeda H, Kurosawa H, Tanaka R, Nozu K, **Nagase H**. Clinical and laboratory characteristics of complex febrile seizures in the acute phase: a case-series study in Japan. *BMC Neurol.* 2023; 23:28.
 21. Sakuma H, Takanashi JI, Muramatsu K, Kondo H, Shiihara T, Suzuki M, Okanari K, Kasai M, Mitani O, Nakazawa T, Omata T, Shimoda K, Abe Y, Maegaki Y, Murayama K, Murofushi Y, **Nagase H**, Okumura A, Sakai Y, Tada H, Mizuguchi M. Japanese Pediatric Neuro-COVID-19 Study Group. Severe pediatric acute encephalopathy syndromes related to SARS-CoV-2. *Front Neurosci.* 2023;17: 1085082.
 22. **Nagase H**, Yamaguchi H, Tokumoto S, Ishida Y, Tomioka K, Nishiyama M, Nozu K, Maruyama A. Timing of therapeutic interventions against infection-triggered encephalopathy syndrome: a scoping review of the pediatric literature. *Front Neurosci.* 2023; 17:1150868.
 23. Hongo H, Nishiyama M, Ueda T, Ishida Y, Kasai M, Tanaka R, **Nagase H**, Maruyama A. Comparison of neurological manifestation in children with and without coronavirus 2019 experiencing seizures with fever. *Epilepsy Behav Rep.* 2023; 24:100625.
 24. Nishiyama M, **Kyono Y**, Yamaguchi H, Kawamura A, Oikawa S, Tokumoto S, Tomioka K, Nozu K, **Nagase H**. Association of early bedtime at 3 years of age with higher academic performance and better non-cognitive skills in elementary school. *Sci Rep.* 2023; 13:20926.
 25. Oikawa S, Yamaguchi H, Hanafusa H, Ye Juan Ming, Tokumoto S, Tomioka K, Nishiyama M, Morisada N, Nozu K, **Nagase H**. Treatment options for infantile spasms syndrome with SCN8A: A case report and literature review. *J Pediatr Epilepsy* (in press, Accepted: 03 December 2023).

業績 (和文誌)

26. 【数値からみる周産期医療 新生児編】栄養 栄養摂取量. 芦名 満理子, **藤岡 一路**. 周産期医学(0386-9881)53巻9号 Page1347-1351(2023.09)
27. 【小児の治療方針】新生児 新生児黄疸. 鮫島 智大, **藤岡 一路**. 小児科診療(0386-9806)86巻春増刊 Page912-914(2023.04)

28. 【論文の書き方・査読の仕方】症例報告の書き方. 藤岡 一路. 日本新生児成育医学会雑誌 (2189-7549)35巻2号 Page176-180(2023.06)
29. 手足口病に伴う急性壊死性脳症の小児例. 今川 幸人, 藤岡 一路, 森沢 猛. 小児科臨床(0021-518X)76巻1号 Page99-103(2023.02)
30. 一絨毛膜一羊膜双胎第一子のみで発症した脳室上衣下異所性灰白質の1例. 白井 佳祐, 芦名 満理子, 福田 拓弥, 鮫島 智大, 城戸 拓海, 阿部 真也, 野津 寛大, 藤岡 一路. 小児科臨床(0021-518X)76巻1号 Page61-65(2023.02)
31. MRSA保菌母体から母児接触により児へ水平伝播をきたした超早産児の1例. 藤本 将史, 阿部 真也, 城戸 拓海, 京野 由紀, 吉田 阿寿美, 仲宗根 瑠花, 菅 秀太郎, 芦名 満理子, 藤岡 一路. 周産期医学(0386-9881)53巻6号 Page992-995(2023.06)
32. 【研修医として今知りたい新生児の診療に必要な手技】治療手技 交換輸血,部分交換輸血. 芦名 満理子, 藤岡 一路. 小児科診療(0386-9806)86巻5号 Page565-569(2023.05)
33. 周産期感染症の最前線 先天性サイトメガロウイルス感染. 谷村 憲司, 内田 明子, 今福 仁美, 平久 進也, 藤岡 一路, 森岡 一朗, 峰松 俊夫, 山田 秀人. 日本産婦人科・新生児血液学会誌(0916-8796)32巻2号 Page27-33(2023.03)
34. 【Controversies in perinatology 2023 新生児編】新生児黄疸に対する治療開始基準 森岡の基準(新神戸基準)を使う. 阿部 真也, 藤岡 一路. 周産期医学(0386-9881)53巻1号 Page55-57(2023.01)
35. 永瀬 裕朗, CQ7 永瀬裕朗非けいれん性てんかん重積状態を治療すると、しない場合に比べて転帰は改善するか、CQ9難治性てんかん重積状態に対して昏睡療法は有用か、CQ10 超難治性てんかん重積状態に対する介入は何かがあるか、CQ11 難治性てんかん重積状態に脳低温療法は有効か、小児てんかん重積・けいれん重積治療ガイドライン2023、監修 日本小児神経学会、編集 小児てんかん重積状態・けいれん重積状態治療ガイドライン改訂ワーキンググループ、診断と治療社、80-94、98-118、2023.
36. 永瀬 裕朗, 第4章3 急性脳症全般に対する体温管理療法(脳低温療法:目標体温32~35℃、脳平温療法:目標体温36℃)小児急性脳症診療ガイドライン2023、監修 日本小児神経学会、編集 小児急性脳症診療ガイドライン改訂ワーキンググループ、診断と治療社、51-5、2023.

7. 神戸こどもの発達支援研修会

こども急性疾患学部門小児統合健康学領域では、神戸市内の障がいのあるこどもとその家族の支援に関する専門職を対象とした研修会「神戸こどもの発達支援研修会」を開催しています。これは、こども総合療育学との共催です。

第6回神戸こどもの発達支援研修会

日 時：2023年6月24日（土） 15：00-17：00

於 所：神戸大学医学部大講義室 Web(ZOOM配信)でのハイブリッド開催

参加者：参加者数 現地：17名 Zoom：168名 計185名

1) 「療育に活かす遺伝診療」

演者：花房 宏昭（神戸大学小児科 こども総合療育学部門 特命助教）

2) 「乳幼児健診のデータを活用し、こどもの発達を考える」

演者：京野 由紀（神戸大学小児科 こども急性疾患学部門小児統合健康学領域 特命助教）

後援：神戸市、神戸市医師会、神戸市小児科医会、兵庫県小児科医会

第7回神戸こどもの発達支援研修会

日 時：2023年12月16日（土） 14：00-17：00

於 所：神戸大学医学部A講義室 Web（ZOOM配信）でのハイブリッド開催

参加者：参加者数 現地：51名 Zoom：175名 計226名

第1部 ハイブリッドセミナー

講演1「発達の問題に対する医学からのアプローチ」

演者：永瀬 裕朗（神戸大学小児科 こども急性疾患学部門小児統合健康学領域 特命教授）

講演2「保育学・乳幼児教育学が目指す子どもの育ちと学びの支援」

演者：北野 幸子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授）

質疑応答 指定発言者 高田 哲（神戸市総合療育センター 診療所）

第2部 ワークショップ（現地参加者のみ）

保育学・乳幼児教育学と医学の専門職連携にむけた対話型グループワーク

過去の研修会

	開催日	演題	講演者（所属）
第1回	2020/12/12	発達障害の診断 ～私たちはこうしてます～	永瀬 裕朗 (神戸大学大学院医学研究科内科系講座小 児科学分野こども急性疾患学部門小児統 合健康学領域)
第2回	2021/6/5	理学療法の基本 ～早期からの療育の目的と意義～	橋本 英二 (神戸市東部療育センター)
第3回	2021/11/20	地域とつながるスクールを目指して SED スクール神戸王子での 児童発達支援の活動と今後の課題 こどもの神経発達症における睡眠障害	江本 幸美 (アートチャイルドケア SED スクール神戸王子) 徳元 翔一 (神戸大学大学院医学研究科内科系講座小 児科学分野こども総合療育学部門)
第4回	2022/4/23	神戸市における発達障害児療育システム (現状と課題)	高田 哲 (神戸市総合療育センター)
第5回	2022/11/19	発達の遅れと遺伝子検査	山口 宏 (神戸大学大学院医学研究科内科系講座小 児科学分野こども総合療育学部門)

第6回 神戸こどもの発達支援研修会



日時 2023年6月24日(土) 15:00~17:00

会場 神戸大学医学部大講義室
Web (ZOOM配信) でのハイブリッド開催

主催 医学研究科小児科学分野こども総合療育学
こども急性疾患学部門小児統合健康学領域

後援 神戸市, 神戸市医師会, 神戸市小児科医会, 兵庫県小児科医会

参加対象 : こどもの発達支援に関わる専門職

*** 事前登録制です。**

参加をご希望の方は以下に掲載しているQRコード
もしくはURLより申込フォームにアクセスの上、
お申し込みください。 (<https://forms.gle/7so7VL22uPiWpYxK6>)
(締め切り6月22日(木)17時)



参加費 : 無料

講演

1) 『療育に活かす遺伝診療』

講師 : 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども総合療育学
特命助教 花房 宏昭 先生

2) 『乳幼児健診のデータを活用し、こどもの発達を考える』

講師 : 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
こども急性疾患学部門小児統合健康学領域
特命助教 京野 由紀 先生

-第7回予告-

開催日 : 12月16日(土) 15:00~17:00

場所 : 神戸大学医学部シスメックスホール 及び webでのハイブリッド開催

主催 : 医学研究科小児科学分野こども総合療育学、こども急性疾患学部門小児統合健康学領域、
人間発達環境学研究科乳幼児教育学研究室・教育連携推進室、神戸市こども家庭局 共催

Zoomの使用方法、参加登録などお困りの際は以下にご相談ください Tel.078-382-6090 (神戸大学小児科医局)

ご視聴の手順

以下のZOOMのQRコードまたはアドレスにアクセスしてください

QRコード



「第6回神戸こどもの発達支援研修会」というミーティングにアクセスできます。

または

<https://kobe-u-ac-jp.zoom.us/j/86812571425?pwd=V1lIVkRnTCt1UUUVkSDZldkJOsIQxQT09>

ミーティングID: 868 1257 1425

パスコード: 031255

※Zoomをインストールしていない場合は、下の画面が開きます



システムダイアログが表示したら、開くをクリックしてくださいを実行してください。

Zoomクライアントをインストールしている場合、ミーティングを起動か、Zoomをダウンロードして実行してください。
アプリケーションをダウンロードまたは実行できない場合は、ブラウザから起動してください。

こちらからお入りください

【重要】参加時に名前を「ご所属 ご氏名」に変更してください

(例 神戸大学 山田 太郎)

名前が確認できない場合には入室いただけません

(名前変更の方法は 右のQRコード か以下のURLを参照

<https://officialmag.stores.jp/entry/zoom-name-change/>)



Zoomの使用方法などでお困りの際は以下にご相談ください
078-382-6090 (神戸大学小児科医局)

第7回 神戸こどもの発達支援研修会

ひとりひとりの発達を踏まえた乳幼児の支援 保育学・乳幼児教育学と 医学の専門職連携のあり方を探る



日時 2023年12月16日(土) 14:00~17:00

会場 神戸大学医学部 A 講義室 & Zoom 配信 のハイブリッド開催
《現地参加 定員 100名》

対象者 子どもの発達支援に従事する専門職、及び同分野の学生

参加
無料
事前登録制

14:00-15:45 第1部 ハイブリッドセミナー

講演1 発達の問題に対する医学からのアプローチ

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
小児統合健康学領域(神戸市寄附講座) 特命教授 永瀬 裕朗 先生

講演2 保育学・乳幼児教育学が目指す子どもの育ちと学びの支援

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 教授 北野 幸子 先生

質疑応答 指定発言者 神戸市総合療育センター診療所 所長 高田 哲 先生

16:00-17:00 第2部 ワークショップ(現地参加者のみ)

保育学・乳幼児教育学と医学の
専門職連携にむけた対話型グループワーク

参加申込方法

参加をご希望の方はQRコードもしくはURLより申込フォームにアクセスの上、お申し込みください。

[<https://forms.gle/JymFuQEbcfWBpZYj7>]

申し込み締切日 2023年12月14日(木) 12:00迄

※現地参加者の定員は先着 100名です。定員超過の場合、オンラインでの参加となります。

参加申込は
コチラから



主催 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども総合療育学・こども急性疾患学部門小児統合健康学領域(神戸市寄附講座)、神戸大学大学院人間発達環境学研究科乳幼児教育学研究室・教育連携推進室、神戸市こども家庭局 共催

後援 神戸市医師会、神戸市小児科医会、兵庫県小児科医会

Zoom の使用方法、参加登録などでお困りの際はご相談ください。 ☎078-382-6090 (神戸大学小児科医局)

8. 編集後記

新型コロナウイルス感染症は、漸く日常生活と共存の形にまで落ち着き、本稿執筆現在はマイコプラズマ感染症が猛威を振るっています。小児の急性疾患・感染症発症に関しても、完全にコロナ禍前に戻った実感がありますが、当講座は、神戸の小児救急診療を担う神戸こども初期急病センターの診療を全面的に支援し、こどもの健康を守るように今後も努めていきます。

前任者の栗野宏之先生が、令和4年12月1日から鳥取大学へ栄転されることになり、藤岡が令和5年5月1日より本部門の特命教授を拝命いたしました。本講座の引き継ぎと同時に本寄附講座の神戸市との契約満了が11ヶ月後に迫る事態となり、神戸市の担当者と講座の存続に向けて濃厚なやり取りを行うことになりました。幸いなことに、栗野先生のお力添えもあり、令和6年度以降も本講座が継続する運びとなり、私も就任→即失職の憂き目に合わずにすみました。言い訳になりますが、契約関係の事務手続きに忙殺されていたため、年報の発刊がここまで遅れてしまったことに関しては猛省しております。次年度以降は、よりタイムリーな年報の発刊に向けて、早期から準備を行ってまいりたい所存です。

末尾になりましたが、当講座を支えていただいております、秘書の中村加代子さん、神戸大学大学院医学研究科小児科学分野の皆様、神戸こども初期急病センターの医師、看護師、スタッフの皆様、神戸市の方々に感謝申し上げます。
(藤岡一路)

発行日 令和6年11月

発行 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門
〒650-0017 神戸市中央区楠町7-5-2
TEL 078-382-6090
FAX 078-382-6099



